

萊草

〔毛吹草〕^三山城 蘆真菰^{同日}五月五日^{之用之日}

〔探藥使記〕^中州照任曰、與州マクナイト云フ所ヨリ菰ヲ産ス、即米ヲ生ズ、其形チ燕麥ノ如シ、又紀

州熊野本宮ニモ菰米アリ、他所ノ菰ニ米穗ヲ生ルコトナシ、

〔倭名類聚抄〕^{二十}萊草 辨色立成云、萊草、^{上音來、和名之波、}一名類草、

〔箋注倭名類聚抄〕^十北山有萊傳、萊草也、焦循曰、爾雅釐蔓華、說文萊蔓華也、萊釐古字通、詩貽我麥

牟、漢書劉向封事引、作貽我釐牟、書帝告釐沃、一作來沃是也、釐即藜、故玉篇以藜訓萊、月令孟春行

秋令、藜莠蓬蒿並興、管子封禪篇云、嘉禾不生而蓬蒿藜莠茂、蓋田畝荒穢、故生此諸草、十月之交、言

汙萊、周禮地官、言萊田、蓋不耕治則荒草生、藜莠之類也、言萊概諸草、正義以為草之總名、則非矣、齊

民要術十引詩義疏云、萊藜也、莖葉皆似藜、王芻、今兗州人蒸以為茹、謂之萊蒸、譙沛人謂雞蘇為萊、

是知萊即藜、

〔撮壤集〕^中芝

〔饅頭屋本節用集〕^{草之木}芝

〔書言字考節用集〕^六植、^六萊、^六字、^六田、^六廢、^六芝、^六本、^六朝、^六俗、^六用、^六此、^六字、^六謬、^六來、^六舊、^六矣、

〔東雅〕^{十三}萊草シバ 和名鈔に辨色立成を引て、萊草一名類草、シバといふと註したり、万葉集に

道之志波草と云ひしもの即是也、シバといふ義不詳、仙覺抄に數の字讀てシバといふ事を、シバ

とは類也と釋せし事も、草にもあれ、木にもあれ、其の小しくして繁りぬる、並に呼びてシバとい

ひけるなり、日本紀に柴の字讀てフシシと云ふ、万葉集には柴讀てシバといひ、小歷木の字亦讀む

ものも見えけり、されば草にもあれ、木にもあれ、其の小にして繁りぬるをいひけり、これは後の俗に

けり、又辨色立成に萊の字讀てシバと云ひしは、說文に萊は蔓華也といひけり、これは後の俗に

盤根草などといひしもの、則草萊などいふ萊の義也、或人の說に、爾雅の傳に、猛目一名結纒といふ

瑞紀にも見えて、今俗に讀むこと、芝の音のまなり、